

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470801208	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	社会福祉法人横浜長寿会		
事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫		
所在地	( 236-0014 )		
	神奈川県横浜市金沢区寺前2丁目23-35		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成29年2月3日	評価結果 市町村受理日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「金沢文庫」で有名な称名寺や海の公園に近い、温かみのある住宅地の中にあります。地域の活動も活発で、夏祭りの子供神輿や、お正月の厄落としの獅子舞などが訪れて下さり、地域に溶け込み皆さん生活を送っています。  
ゆっくり・ゆったり・私らしくを理念に置き、お一人おひとりが自分らしさや誇りを持ち、ホッと安心でき、人の温もりを感じながら生活を送っていただけるようスタッフ一同心を込めてサービスを提供させていただいています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年3月2日	評価機関 評価決定日	平成29年5月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、京浜急行線「金沢文庫駅」を下車して徒歩12分、歴史的に有名な「称名寺」のすぐ近くにありま。門前通りには町内会館や消防団、コンビニエンスストア、食料品市場などがあります。事業所は道路から5メートルほど入った鉄筋造り2階建ての1階にある1ユニットで、2階は別法人が運営する障害者のグループホームです。

<優れている点>

「ゆっくり・ゆったり・私らしく」を理念に、職員は利用者一人ひとりが自分の思いや生きがいのある日々を過ごせるよう支援に取り組んでいます。利用者9名の1ユニットで職員8名の勤続年数は5年以上が4名、10年以上が3名と経験の長い職員により、利用者との馴染み深い信頼関係が構築されています。年間行事である「誕生日会」は職員2名が輪番制で担当し、利用者一人ひとりの「やってもらいたい事」「食べたい物」「行って見たい場所」など本人から聞き取り、希望をかなえています。把握した利用者のニーズは介護計画に反映され、個別支援につなげています。本部の研修委員会によりテーマ別研修、新人研修、指導員研修などが実施され、職員のレベルアップを図っています。

<工夫点>

職員会議や職員の提案により、各居室の壁やベッド周囲にも手すりを設置して事故防止を図っています。設備の安全性にも配慮し、毎日3回、玄関周りや電気、水道などを点検し、業務日誌に記録しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開所時からの理念を今も引き継いでおり、会議の場や日常の中で声を掛け合い、実践へとつなげています。	利用者一人ひとりが張り合いや生きがいのある日々を過ごせるよう「ゆっくり・ゆったり・私らしく」の理念を実践に繋げています。利用者の「できること」や「わかること」を活かし、自立した生活を思い思いに過ごせるよう支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地域行事への誘いをいただき、参加しています。又、日常的に散歩に出かけ、あいさつを交わしあい、時には立ち話をしながら、互いに顔見知りの関係を築いています。	自治会に加入し、多くの行事や活動に参加しています。夏祭りの子供神輿や正月の獅子舞は、利用者を楽しませてくれています。近くの自治会館で高齢者が集まり、お茶会やコーヒーカフェが開催され、利用者も参加して顔見知りになっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事への参加や、日常の生活での地域の方々との自然な触れ合いを通して、認知症の方々への理解を得ただけのように取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通してグループホームでの利用者の生活の様子を知っていただき、家族や地域の方々からの評価や助言、要望をいただき、より地域とつながってサービスを提供できるように取り組んでいます。	地域包括支援センター職員の呼び掛けなどの協力により、民生委員や自治会長、地主、家族などが参加して年3回開催しています。事業所の活動状況やヒヤリハット事故の取り組みなどを報告し、参加者からは具体的な疑問や要望について話し合っています。	会議の開催に地域包括支援センター職員が参加の呼び掛けに協力しています。外部の人々に事業所を知ってもらうためにも、季節に応じたテーマなどを設定し、開催数の増加が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	区内のグループホーム連絡会に参加し、他のグループホームや区の職員と情報交換を行っています。また、介護相談員を受け入れ、助言をいただきながら協力関係を築いています。	管理者は介護度認定更新や運営推進会議の議事録の提出時に、区と話しています。また、待機者や空室状況などの情報を共有しています。区のグループホーム連絡会の研修会に参加し、区職員や他の事業所の職員と交流し、サービスの向上を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束が起こす弊害を知ることや、利用者一人一人についての理解を深めていくこと、又、スピーチロックを含め、会議において話し合いながら身体拘束をしないケアを提供できるように取り組んでいます。	入社時から2年間、法人本部の詳細な人材育成基本プログラムがあります。職員は、身体拘束廃止や接遇ケアなどの研修を受けており、弊害について正しく理解しています。毎月の職員会議の中でも不適切なケアを防ぐため、職員が心の余裕を持つように、職員の状態に配慮した取り組みをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待について理解を深め、スタッフが心の余裕を持って仕事に取り組めるよう勤務内容を見直しながら、虐待につながらないケアに取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について理解し、必要に応じて支援につなげていくことができるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約内容や重要事項についての説明を行い、家族や利用者の入居に対する不安や心配事などを聞き、安心して入居生活が送れるように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族来訪時や近況を伝える手紙、電話などで話しやすい雰囲気や関係を作り、意見・要望・苦情など何でも伝えていただけるよう働きかけています。また、日常の関わりの中で利用者から意見・要望など聞いた時には、口頭や記録などで申し送り、サービスへとつなげています。	近隣の家族が多く、定期的に訪問があり、管理者や職員に要望や思いを伝えています。毎月の書類と共に管理者は健康面や日常の生活などを報告しています。2ヶ月ごとに訪問する介護相談員は利用者から要望を聞き取り、職員と話し合い、支援や運営に反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の会議でスタッフに意見や提案を出してもらい、話し合いをしながら運営に反映させています。	毎月開催する職員会議では利用者一人ひとりの支援内容や対策などを全員で検討しています。更に時間をかけて誕生日会やイベント・日常の写真係などの担当業務を通じ、運営や環境整備について意見を出し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人の経営会議や役職者会議において、運営状況の報告・点検を行い、スタッフの勤務状況や労働環境等の問題・課題について検討し、職場の環境整備やスタッフが成長・育成できるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人で委員会を設置し、人材の育成・成長への取組みを強化しています。法人の内部研修や外部研修への参加を行い、参加後は研修報告を行い、研修内容を全スタッフで共有できるように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内部の集合研修や、役職者会議を通して他事業所のスタッフと交流し意見交換をする機会を設け、サービスの向上に努めています。また、同区内のグループホーム連絡会に参加し、意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上へとつなげていく取組みをしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前の見学や面接で本人の様子を知り、スタッフ間で情報を共有し、利用時に不安や戸惑いがないよう努めています。また利用初期には、様子を細かく記録し、その方のことをよく知ることにも努め、何でも話せ、安心して生活を送っていただける関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前の見学や面接で家族の不安や要望・思いを聞き、受け止め、安心してサービスを受けていただけるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に本人と家族にお会いし、思いや生活習慣、趣味、嗜好等聞き、必要なサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一人ひとりをよく知るように努め、個々のそれまで培ってきたもの、思い、今出来ることを大切にしながら、人生の先輩として教えていただきながら、共に暮らす関係を築いていくように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の様子をこまめに伝えるとともに、家族の思いをきちんと聞き、互いに意見を出し合いながら、共に利用者を支えていくという関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人に気持ち良く来訪していただけるように、また、気軽に電話を掛け合えるように配慮し、馴染みの関係が途切れないように努めています。	利用者一人ひとりのこれまでにやってきたことや考え方、趣味などの習慣を尊重し、それに沿った生活が送れるよう努めています。本や新聞の購読、切り絵など、日中活動を支援しています。友人との電話の取次ぎや、正月の日帰り帰宅など支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	その日その日の一人一人の心身の状態や気分を把握し、利用者同士が互いに協力し、理解しあい、関係が円滑になるように働きかけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所に移られるときには、本人の生活が断ち切られないように、なるべく細かに情報を提供しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中での本人の発する言葉や表情などから、思いや要望をくみ取り、また、家族からも情報をいただきながら、本人の意向・希望を把握するように努めています。	入居時のアセスメントや日々の会話、行動、表情などから利用者の思いや意向の把握に努めています。誕生日会は職員2人が輪番で担当し、利用者本人のやってもらいたい事、食べたい物、行って見たい場所などを本人から聞き取って個別支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にこれまでの暮らし方の情報を得るとともに、入居後も関わりの中から知ったことを申し送りや会議を利用し、情報を共有していくように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	会話や表情、毎日の記録、働きかけにより、現状を把握し、記録や会議などで全スタッフが現状の把握ができるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で利用者や家族の思いや意見を聞き、会議の中で個々についての情報を出し合い、本人にとってよりよい生活とは何かを考えながら計画を作成しています。	管理者は計画作成担当者でもありません。毎月の職員会議で、利用者一人ひとりの支援の内容について詳細にモニタリングしています。誕生日会などで聞き取った利用者のニーズなども取り入れ、基本的には6ヶ月ごとに介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の健康状態や食事摂取状況、過ごし方などを記録に残し、情報を共有し、会議の中で話し合い、実践につなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の様子や思いの変化を受け止め、今その方にとって何が必要かを常に考えながら支援につなげています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事や日々の散歩などを通して、馴染みの関係を築くことで、地域の中で安心して生活を送っていただけるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の希望を聞きながらかかりつけ医を決めています。入居後も継続してそれまでのかかりつけ医に診てもらっている方もいます。又、受診には必要に応じて管理者も付き添い、適切な医療を受けられるよう支援しています。	利用者は、本人や家族の希望に沿い、従来からのかかりつけ医やホームの協力医による受診をしています。通院は家族同行が基本ですが、状況に応じて通院支援をしています。内科が月2回、歯科が毎週の往診で、適切な医療が受けられるようになっています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の健康観察をしっかりと行い、受診時には日頃の様子をかかりつけ医に報告するとともに、緊急時にはかかりつけ医に相談しながら、速やかに適切な医療を受けることができるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が付き添い、必要な情報を渡し、適切な入院治療ができるように支援しています。また、退院に向けた支援ができるように、病院関係者との情報交換を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の意向を踏まえ、ホームで出来ることと出来ないことを説明し、家族やかかりつけ医とその都度相談しながら方針をたて、スタッフ間で情報を共有しながら支援を行っています。	利用者の重度化や終末期には、必要な段階で、家族の意向やホームでの対応など出来ることを、医師を含めて話し合い、支援に繋げています。看取りの経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時には管理者へすぐに連絡を取り、指示に従い動けるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	同じ建物内の別法人のグループホームのスタッフとも顔見知りの関係を築き、互いに協力しあう関係づくりを行っています。	消防署の立ち入り検査は毎年受けていますが、本年度は避難訓練を実施していません。水や食料は3日分を目安に蓄えています。地震・火災発生時対応のフロー図や避難経路を事務室に掲示し、消防署直通の自動火災通報装置を設置しています。	運営推進会議では、地域の人へ訓練実施への協力を依頼する話題も出ています。早急に避難訓練を実施し、今後、消防署の指導も含めた避難訓練を、定期的にも実施していくことが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	会議の中で言葉のかけ方を確認しながら、一人ひとりの人格や誇り、プライバシーを大切に言葉かけができるよう努めています。	職員は、利用者の思いを汲み取り、楽しく過ごせるよう支援しています。職員の不適切な対応が見られた場合には、管理者は会議で話題にあげたり、プリントを配付するなどして自分の支援の仕方を振り返り、意識を促しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しかけやすい雰囲気をつくり、一人ひとりの会話の内容や表情から思いをくみ取り、本人が自己決定しやすいような声かけや対応に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	表情や発する言葉などから、その日の気分や体調をくみ取り、一人ひとりの生活のペースに沿った支援ができるように努めています。また、レクリエーションなども今日は何がしたいかお聞きしながら行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族に協力いただきながら、利用者それぞれの好みを尊重し、今日はどの服を着たいかなどお聞きし、その人らしい身だしなみができるように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を作っている様子や片づけをしているところが直接目に入り、準備や片づけを手伝っていただきながら、食事への興味や楽しみを持っていただけるように努めています。	食材や献立は、季節に応じた行事食も選べる業者に依頼しています。行事食以外にも、毎月パンの日を設けたり、誕生会には好きなものを提供したり、個別でケーキを食べに行くなど、楽しんで食事ができるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立の作成と食材の配達を外部に委託し、カロリーと栄養バランスのとれた食事の提供をしています。また、一人ひとりに応じた食事形態で出し、摂取状況をみながら個別に好きなものや食べやすいものを出すなど柔軟に対応しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時と毎食後、個別に一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	申し送りや会議などで一人一人の排泄パターンの状況を把握し、その方に合った支援を行っています。トイレでの排泄を基本に、トイレに行きたいときのサインを見逃さないように支援しています。	利用者の様子や間隔、更に排泄を記録してパターンを把握し、声掛け誘導してトイレでの排泄を支援しています。ホームでの支援で自立度があがった利用者もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩や運動への参加をしていたでけるように声をかけ、毎日のヨーグルトや水分を十分に摂っていただけるように配慮しています。下剤についてはかかりつけ医と相談しながら、個々に応じた使用をしています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	午後の時間帯で、その方の表情や気分を見ながら声をかけ、気持ちよく入浴していただけるように支援しています。	1日おきの入浴を基本としています。毎日入りたい、ゆっくりと湯船につかりたいなどの希望にも柔軟に応えています。介護度が高い人へは二人がかりで支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動をなるべく促すとともに、一人ひとりの生活のペースやその日の体調をよく観察し、一人一人に合わせた休息がとれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの処方や効能、副作用の説明をファイルに保管し、変更があったときには様子の変化に気を付けていくよう申し送りを行い、状態変化の観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	「ありがとうございます」という言葉を大切に、一人ひとりお願いできる場所はお願いし、張り合いを持って生活ができるよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的にその日の気分に合わせ、近所を散歩しています。また、家族との外食や外出を楽しみにしている方もいます。	天候や利用者の体調や好みに合わせて散歩したり買い物に行ったりしています。また、桜、コスモス、黄菖蒲、チューリップなど、季節に応じた花見や初詣など、利用者が戸外の空気や風景に触れることができるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	それぞれの意向を大切にしながら、家族とも相談しながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話があったり、かけたいという方には、ゆっくりと他の方を気にせず話ができるように、自室へ電話を取り次いでいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭的な家具を置き、ホッとできるような空間づくりをしています。また、置物や装飾などで季節を感じられるように工夫しています。	ホーム内は、バリアフリー仕様で、換気も掃除も行き届いて整頓されており、安全で快適な住環境となっています。季節の花や観葉植物を置き、雛人形、正月飾りなど、その時々季節を感じられる装飾をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにはテーブルが二つとソファが一つあり、利用者同士が思い思いに話をされたり、新聞を読んだりされています。また、廊下にも椅子を置き、少し皆さんと距離を置きたい時などに過ごせる場を設けています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に今まで使っていた愛着のあるものをお持ちいただくように話しています。家族の写真や好きな絵を飾られる方もいれば、何もないシンプルな部屋の方もおり、一人ひとりが居心地良く過ごせるようにしています。	利用者は、趣味の作品を作る道具、タンス、椅子、家族の写真、位牌、テレビなど、馴染みの品々や好みのものを持ち込んで暮らしています。各居室には壁やベット周りにも手すりを設置しており、安全にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	会議の中で一人一人の現在の状況を話し合い、本人の不安や混乱を取り除き、自立した生活が送れるように環境整備をしています。		